

諏訪市の地区別人口の現状と将来推計値 (平成24年4月1日基点に推計)

24. 10.11 矢島義恭

ここの人口推計値は官庁などで用いられているコーホート法によるものです。平成19年と24年の5歳階級人口を用い、この5年間の人口動態をもとに推計したものですから、この時期の人口動態がそのまま続けば将来このような人口になるということです。これからの振興策の成否や経済・社会状況が変化すれば、この推計値も当然変わります。

推計値の確度は人口規模が大きいほど高いと言われていますので、数千人規模のこの地区推計では20年先までの推計データを考察の対象としました。

図-1

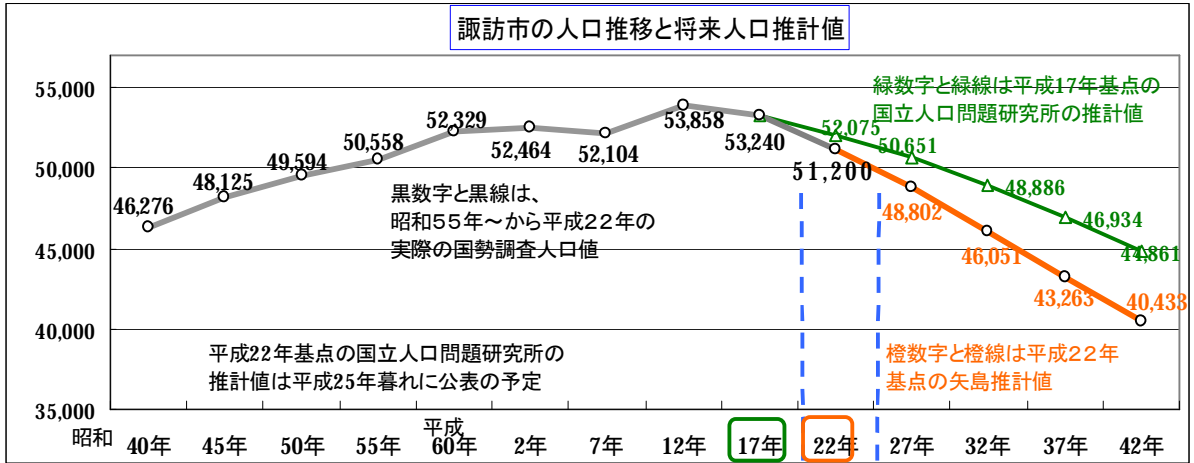


図-2

- 上諏訪市街地
下の2地区を除いた戦前からの市街地50町内会
- 上諏訪南西部
島崎1,2、城南1、みどり、杉菜池、浜崎
- 上諏訪山の手
茶白山、桜ヶ丘、立石、双葉ヶ丘、尾玉、金山、緑ヶ丘、くるみ台、角間新田、強清水

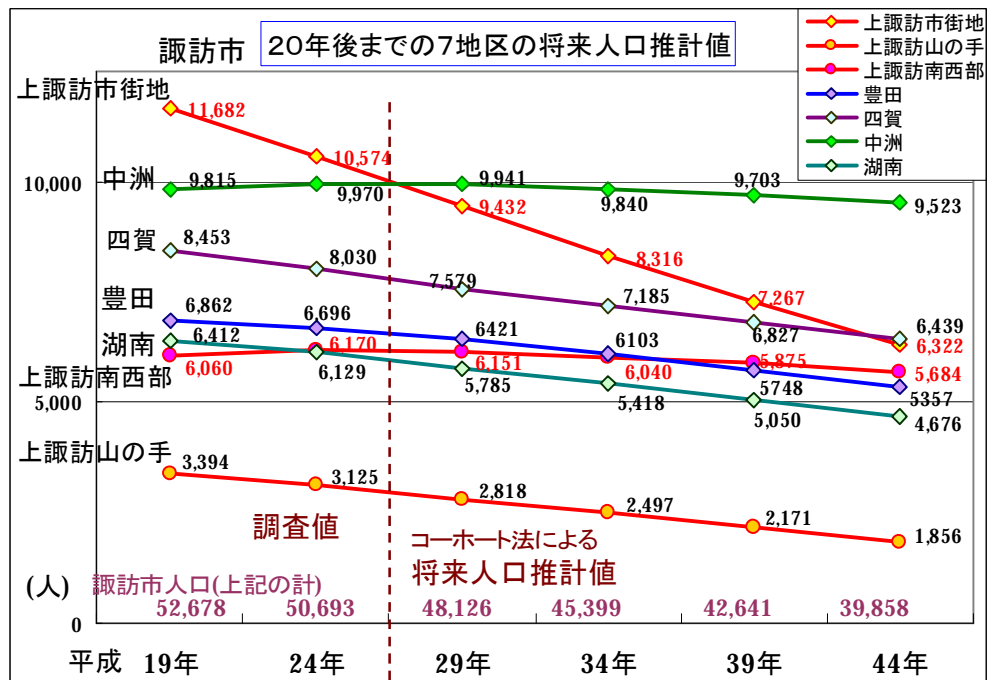


図-3

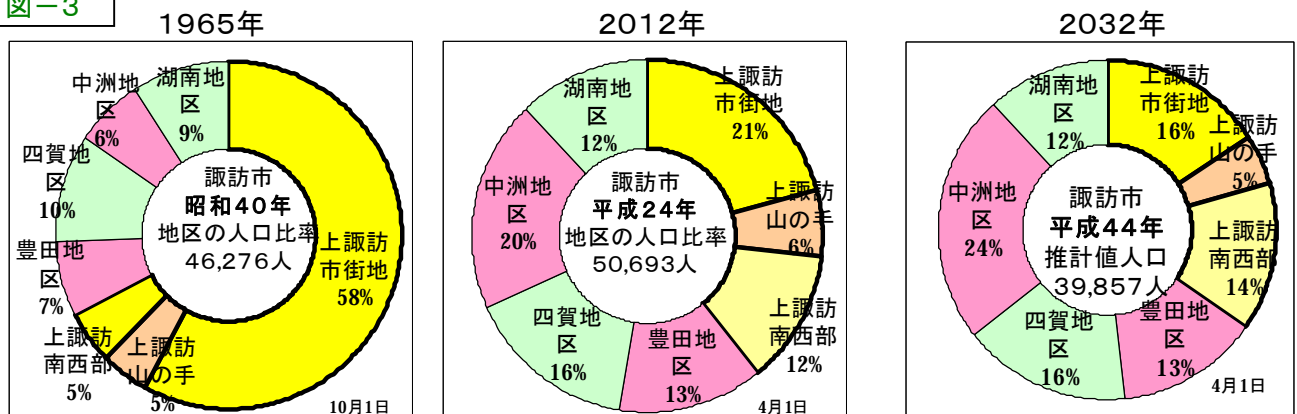


図-4

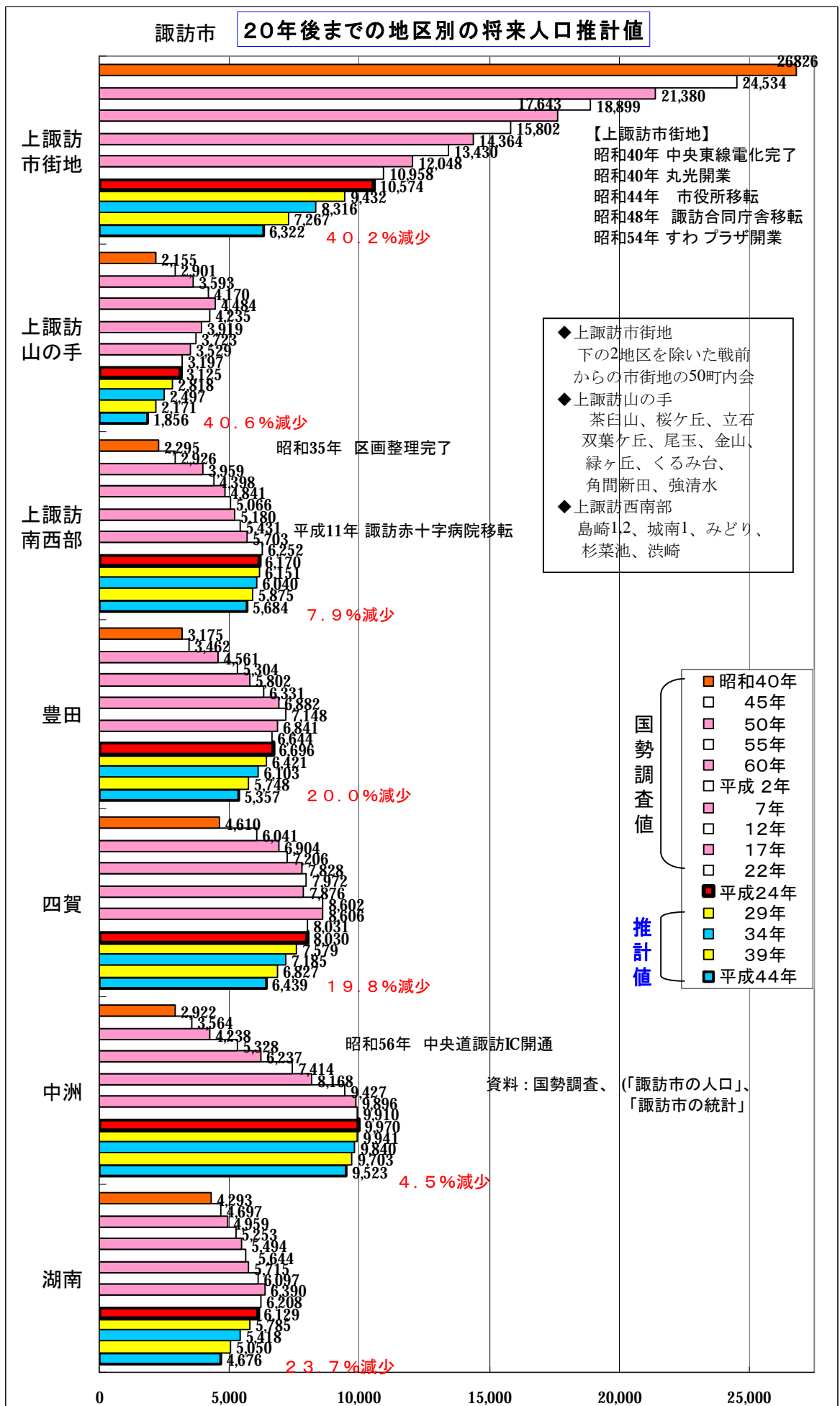
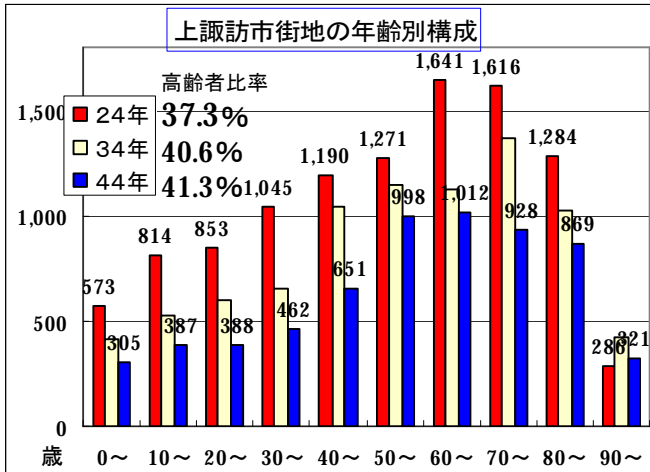
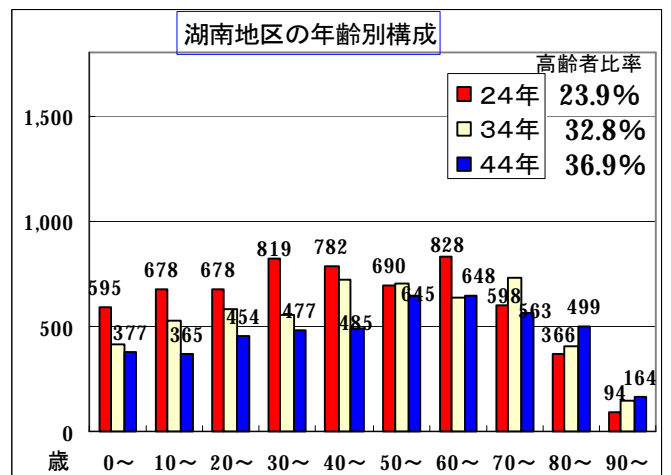
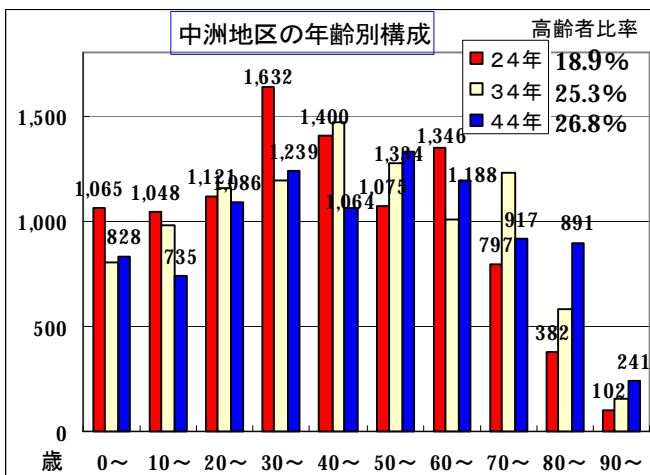
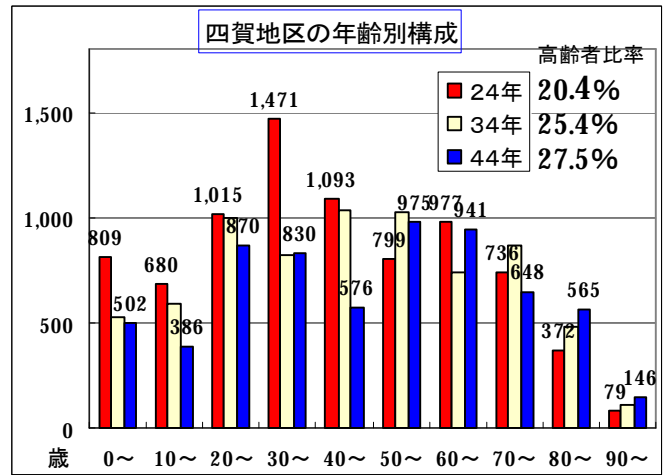
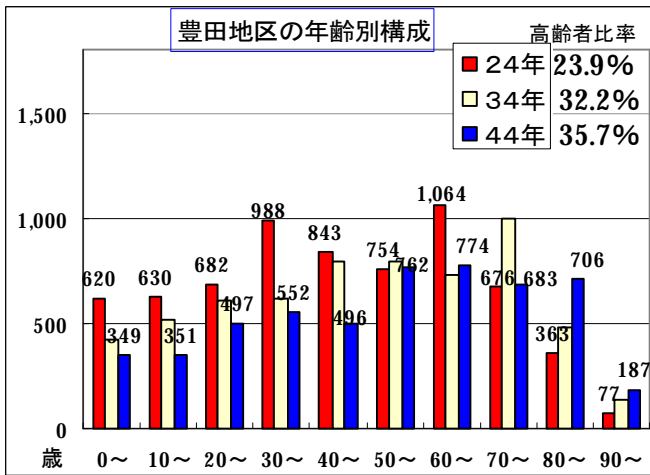
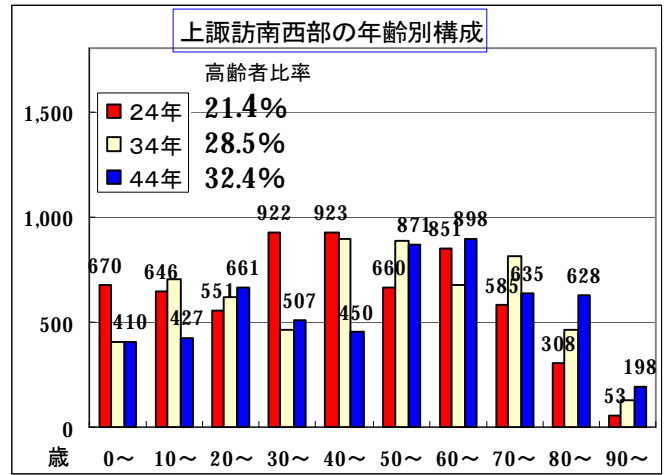
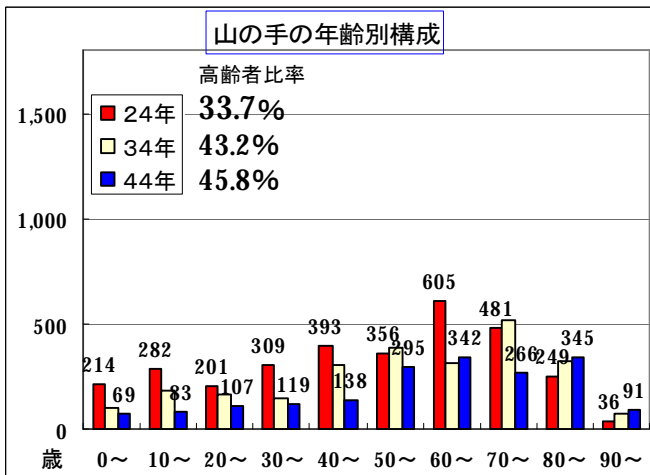


図-5



地区別の高齢化率 65歳以上 (%)

	平成24年	平成44年
上諏訪市街地	37.3	41.3
上諏訪山の手	33.7	45.8
上諏訪南西部	21.4	32.4
豊田	23.9	35.7
四賀	20.4	27.5
中洲	18.9	26.8
湖南	23.4	31.8



減少期に入った諏訪市の 地区別人口の現状と将来推計値の特徴

24. 10. 8 矢島義恭

* 諏訪市全体の人口はピーク時を過ぎて急減期に入りました

諏訪市では平成 13 年の人口 53,945 人をピークに人口減少が始まりました。平成 17 年と 22 年の国勢調査によれば 5 年間に 2,040 人も減少があり、将来人口推計値によると 20 年後の平成 42 年には 40,433 人へと 21%もの急減少が推計されます(図-1)。しかし、地区によって大きな差があり、人口の激減が続く地区と、微減に止まる地区があります(図-2,4)。

A 20年後に人口の40%が減少する上諏訪市街地と上諏訪山の手地区

1. 上諏訪市街地では人口の激減が止まらず昭和 40 年の 4 分の 1 になります

昭和 40 年から平成 24 年までの 50 年近くの間には 26,826 人から 10,574 人へと 61%も減少し(図-4)、市内人口に占める人口比重は昭和 40 年に 58%もあったものが、平成 24 年には 21%に減少しました(図-3)。平成 44 年までの 20 年間には更に 4,251 人、40.2%も減少して 6,322 人になると推計されます(図-2,4)。これは昭和 40 年人口のわずか 4 分の 1 にすぎず、市内人口の 16%を占めるにすぎません(図-3)。駅周辺商店街の再生に必要な商圈人口の激減が続きます。

年齢別の構成をみると、60 歳代以後の高齢者が多いため高齢化率は 37.3%にもなり死亡が多いことや、20 歳代から 40 歳代までの子育て期人口と 0 歳から 19 歳までの子ども世代人口の少ないことが人口激減の主な原因となっています(図-5)。

2 上諏訪山の手地区も市街地同様に少子高齢化により人口激減が続きます

戦後の団地造成などにより人口が増加してきた山の手地区も、若者の流出などにより昭和 60 年ごろをピークに人口減少に転じた(図-4)。市街地同様に高齢化率は 33.7%と高く、少子高齢化の年齢別構成ため人口激減が続く(図-5)、20 年後には 1,269 人、40.6%の激減が推計されます(図 2,4)。

B 20%前後減少する豊田、四賀、湖南地区

3 豊田地区の人口増加はピーク時を過ぎて減少期に入っています

豊田地区は平成 12 年がピークで昭和 40 年の 2.3 倍に増加しましたが、それ以後は減少に転じています。更に減少が続く、20 年後には 20.0%減少すると推計されます(図-2,4)。

4 四賀地区の人口増加はピーク時を過ぎて減少期に入っています

四賀地区はピーク時には昭和 40 年の 1.9 倍にまで人口が増加しましたが、最近では減少に転じています。これからも減少が続く、20 年後には 19.8%減少すると推計されます(図-2,4)。

5 湖南地区の人口増加はピーク時を過ぎて減少期に入ります

湖南地区は 4 地区のなかでは比較的増加が少なかった地区で、ピーク時で昭和 40 年の 1.5 倍に止まっています。人口減少期に入っており、20 年後には 23.7%減少すると推計されます(図-2,4)。

B 5~8%の微減に止まる中洲地区と上諏訪南西部地区

6 中洲地区の人口増加はピーク時に達し、これからはほぼ横ばいで微減に止まります

中洲地区の平成 24 年人口は昭和 40 年の 3.4 倍にもなりました(図-4)。30 歳代、40 歳代の人口や 0 歳~19 歳の子どもが多いのが特徴で、上諏訪市街地や山の手地区とは対照的な人口構成です(図-5)。ほぼ横ばいで推移し 20 年後には 4.5%の減少に止まると推計されます(図-2,4)。

7 上諏訪南西部地区は新興住宅・商業地域として人口が激増してきたが、微減に転じます

洪水後の区画整理により水田の宅地化が進み最近では商業地域が形成されて、昭和 40 年以来この約 50 年間に人口は約 2.7 倍にも激増しました(図-4)。人口構成などは中洲とほぼ同様で、20 年後には 7.9%の減少に止まると推計されます(図-2,4)。